

# 城北防災だより

2023/11/17  
64号  
城北地区防災対策協議会  
事務局：城北地区公民館

## 発災時の行動の流れを、みんなで理解し、災害に強い城北にしよう！！

今回の訓練は、危険が迫る場面での、自助・近助・共助の備え(行動)を確認することに重点を置いて実施しました。 \*「近助」:となり近所の助け合い

「一時集合場所集合訓練」の参加者数は、現時点で1289名(2町内会報告待ち)でした。

また、同時に実施した避難行動要支援者への「声かけ行動訓練」では、集合場所への移動が困難な方は、玄関先で顔を合わせて言葉を交わす「玄関先訓練」としました。人数報告は受けていませんが、相当数の方が参加されたと聞いています。

“いざ”という時に、この「安否確認システム」が機能して、1人でも多くの住民の命が救われることを願っています。

一時集合場所集合訓練の前に実施した、「自助」はどうだったでしょう。各家庭で「総合防災マップ」〈鳥取市2020〉を参照し、発災時に備えることが出来たでしょうか？

「マイ・タイムライン」の確認を今一度お願いします。「マイ・タイムライン」とは、“いざ”という時に慌てることのないように事前に家族で話し合っ、時系列で避難に備えた行動を、一人ひとりがあらかじめ決めておくものです。

城北地区は、浸水深3～5m地域にあたりますから、基本的な避難の方法は「水平避難」です。《総合防災マップ》P60指定緊急避難場所の「城北小学校2階」は、逃げ遅れた場合の、緊急避難場所になります。いったん浸水すると半日から1日は浸水したままになり、物資は届きません。



城北地区の災害リスクを考えた「マイ・タイムライン」を、最終的には個々の判断で決めておくことが重要です。近隣の「指定避難所(33箇所)」は、中ノ郷体育館・浜坂小学校・ふくべ砂丘温泉ふれあい会館です。

人間の行動原理として災害発生前は、“正常性バイアス”が働き危険性を過少に受け止めがちです。また、大雨の中では、屋外に出ること自体を「危険」・「億劫」と感じ「避難しない。」という「判断」が、ごく一般的な住民の行動だと言われています。

西日本豪雨の際に、真備町の住民で生き延びた方のコメントがありました。

「一人なら逃げませんでした。でも、隣の〇〇さんが、危険だから逃げよう！と、声をかけてくれたので逃げました。とても感謝しています…。」近助の安否確認システムが機能した好事例です。

ところで、その真備町の教訓に学ぶ視察研修を12月1日(金)に計画しています。公民館だより11月号でお知らせしましたが、まだ、空きがあるようです。訪問先では防災担当者の説明を受けます。研修参加希望の方は、公民館にお尋ねください。

